

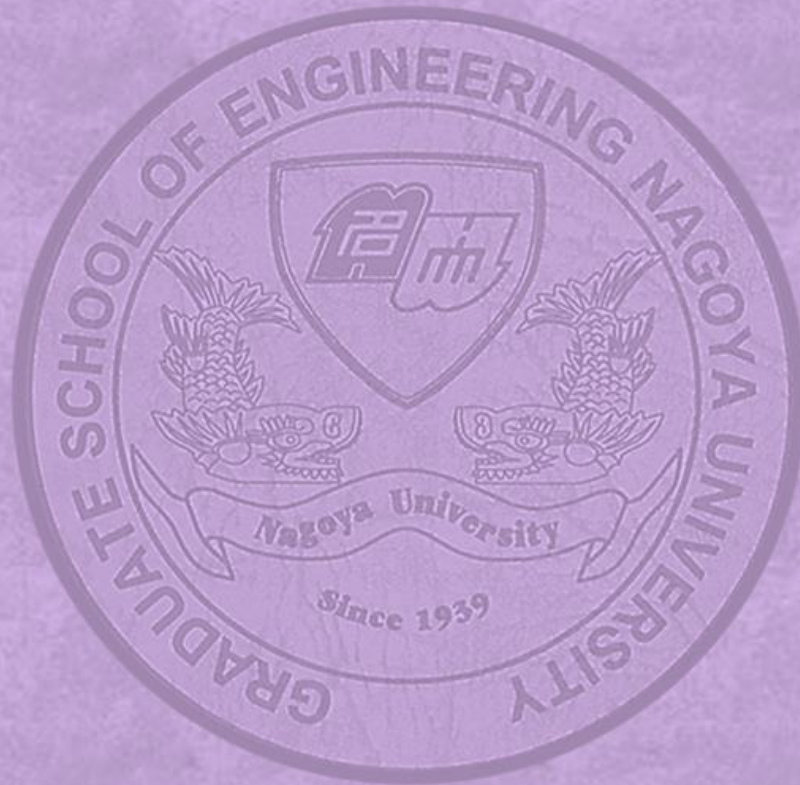
名古屋大学大学院工学研究科

国際交流室報

International Academic Exchange office

Annual Report

2022 – 2023



International Exchange Committee
International Academic Exchange office
Graduate School of Engineering
Nagoya University

名古屋大学大学院工学研究科学生支援・国際交流委員会
名古屋大学大学院工学研究科国際交流室
<https://int-office.engg.nagoya-u.ac.jp/>

目次

巻頭言（中村 光）	- 3 -
コロナ禍からの完全復活に向けた国際交流室の活動（原 進）	- 4 -
令和4年度国際交流室活動の現状（古谷 礼子）	- 5 -
NUSIP 同窓生国際シンポジウム 2022 の開催報告（合田 由美子）	- 7 -
工学研究科における国際交流の状況について：工学研究科関連学術交流協定一覧（市川 剛）	- 12 -
令和4年度 「Speaking & Writing 講座」（レレイト エマニュエル）	- 16 -
令和4年度 派遣留学説明会（曾 剛）	- 17 -
令和4年度 「工学概論 III」（レレイト エマニュエル）	- 18 -
令和4年度 「テクニカルライティング」（曾 剛）	- 19 -
令和4年度留学生の防災意識と防災対応力の向上に関する取り組み（レレイト エマニュエル）	- 20 -
令和4年度 中部地区製造業企業交流会事業（グリブ ディーナ）	- 21 -
英語による留学生向けものづくり公開講座の報告（井上 剛志）	- 22 -
令和4年度 グローバル理工系人材のためのキャリア形成支援事業（グリブ ディーナ）	- 23 -
名古屋大学工学部国際交流室杯 英語自己紹介動画コンテスト（グリブ ディーナ）	- 24 -
日米加協働教育プログラム その10（梅原徳次・野老山貴行・松本敏郎・伊藤靖仁）	- 25 -
留学体験記：Findings through JUACEP in Polytechnique Montréal.	- 27 -
海外渡航助成制度による研究活動報告	- 28 -
令和4年度交換留学による派遣留学生	- 31 -
令和4年度短期留学推進制度（受入）による外国人留学生	- 32 -
授業料を不徴収とする大学（部局）間交流協定締結大学一覧	- 35 -
令和4年度学位取得外国人留学生論文一覧（博士後期課程）	- 39 -
令和4年度学部卒業留学生	- 43 -
名古屋大学及び工学部・工学研究科在籍外国人留学生の変遷	- 44 -
工学部・工学研究科外国人留学生数調（国・地域別）	- 45 -

巻頭言



工学研究科 副研究科長
中村 光

2019 年末から突如世界を襲った新型コロナウイルス感染症 COVID-19 に対し、感染症法上の扱いとして 2 類相当として様々な行動の制限や対応が求められてきましたが、今年 5 月に季節性インフルエンザと同等の 5 類へ引き下げられ、2019 年以前の日常がようやく戻ってきました。この間、国をまたいだ人の移動が制限され、海外留学を行う学生数や留学生受入数は大幅に減ることになりました。また、主に学術交流協定を締結している海外の大学から留学生を向かえて行っていた自動車工学サマープログラム（NUS I P）も 2020 年～2022 年の 3 年間中止をせざるを得ませんでした。

国際活動の制限の一方で、オンラインの利用が大幅に進み、オンラインで海外の講義や講習を受けたり、海外の方と会議を行うことも容易となり、海外との交流の仕方も大きく変わりました。オンラインを活用した取組みとしては、学生に有意義な国際教育と異文化体験を提供するための COIL/VE（Collaborative Online International Learning オンラインを活用した双方向の国際共同学習/ Virtual Exchange 仮想空間での交流）が注目を集めています。また、日本の国際教育・交流を促進する新しいプラットフォーム JV-Campus（Japan Virtual Campus）が 2022 年から開始され、国際競争力ある教育をオンラインで国内外に開放する活動が進んでいます。

このような状況の中、海外留学生数や留学生受入数もコロナ前に戻りつつあります。工学研究科では 4 年ぶりに NUS I P を再開し、6 カ国の海外大学から 25 名の参加があり、好評裡に実施することができました。また、世界展開力強化事業～米国等との大学間交流形成支援～で、工学研究科が中心となり内容を検討した「微分型成長を重視した分野横断型日米協創人材育成」が今年度採択され、アメリカの複数の大学との積極的な交流が始まることとなりました。今後、多くの名大生が米国の学生と交流することが期待されます。

日本では、現在、科学技術・イノベーション創出の活性化が求められており、そのために博士課程で専門的な知識を深めるとともに異分野との融合で新たな知を想像する能力を身につけた、博士の学位を有する高度人材育成の取組みが進められています。高度人材の育成は、欧米はもちろんアジア諸国でも積極的に行われており、日本の高度人材は他国の方との積極的な関わりも必要となります。また博士の学位を有していなくても、同様の能力を有する工学系の出身者が今後ますます求められると思われれます。イノベーション創出には異分野融合とともに、異文化や多様性への理解が不可欠であると考えています。国際交流活動は、高度人材の育成にも寄与するものであり、工学部／工学研究科としても更なる体制づくりとともに、学生はじめ関係者の国際交流に対するモチベーションを一層向上させるための取組みを進めていきたいと思ひます。

皆様におかれましては、異文化や多様性理解に資する国際交流活動にご理解いただき、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍からの完全復活に向けた国際交流室の活動



工学研究科学生支援・国際交流委員長
原 進

令和5年4月より、大学院工学研究科学生支援・国際交流委員長ならびに国際交流室長を務めております原でございます。ここでは、まだ同委員会副委員長でありました令和4(2022)年度の国際交流室の活動について振り返りたいと思います。戸田祐嗣前委員長が書かれた令和3(2021)年度のご報告においてもコロナ禍の影響からの脱却を目指して試行錯誤された様子、例えばオンラインによる交流など新たな試みへの挑戦などが見られました。本年度は多少、コロナ禍前の様子に近づいてはきたもののまだ完全な回復には至っておりません。国際交流室として公式に対応した海外からの来訪者はいらっしゃいませんでした。一方、オンラインでの活動としては、例えば2022年11月5日にNUSIP Alumni Symposiumを実施し68名の方にご参加いただきました。研究生ならびに大学院研究生のためのオンライン応募システムNU-AASの本格稼働や日本人学生の英語スピーキング・ライティング能力向上を目的とした英語力強化講座などについてはこれまで通り順調に取り組んでおります。

大学院工学研究科が関係する部局間学術協定としては以下の3件の締結または更新を達成しました：

- ・ ミュンスター大学化学薬学部、有機化学研究所、生物化学研究所及び医薬化学研究所・ドイツ・2022.01 締結
- ・ モントリオール理工科大学・カナダ・2022.11 締結
- ・ クレルモンオーベルニュ大学・フランス・2023.3 更新

さらに、国際交流室の活動には直接関与しないものの、大学院工学研究科博士後期課程にタイ・チュラロンコン大学とのジョイント・ディグリー・プログラムが設置され、2022年8月から名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステナブル材料工学専攻として学生の受け入れを開始し、現在2名の学生が本学を主大学として在籍していることは当研究科の国際連携にとって大きなニュースです。

以上、コロナ禍からの完全な回復はしばらく先としても、当研究科の国際交流活動が再び活発化する手応えは感じられるようになってきました。加えて令和5(2023)年度前半には当研究科が取りまとめ役となって文部科学省大学の世界展開力強化事業への申請が計画されており、当室スタッフが申請に大きな役割を果たします。この事業が採択されましたら、コロナ禍前、もしくはそれ以上に当室の活動も活発になることが予想され、今は万全な申請を行い、朗報を待ちながら鋭気を養う時期に相当します。ただし、室長としての期待は、単に申請に採択されて以前のように、またはそれ以上に忙しく働いていただくことではなく、忙しさの中でもスタッフ一人一人の専門性が十分に発揮され、採択事業を前へ進めるごとにスタッフの新たなキャリアが身に付きステップアップできること、そしてスタッフの成長が名古屋大学に期待する多くの留学生や日本人学生にユニークで魅力的な素晴らしい教育環境をもたらすことです。このため、内向きの仕事に集中し過ぎず、当室の活動を適切な学会で報告し、評価を受ける機会も積極的に設けたいと考えております。皆様には引き続き、当室の活動にご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年度国際交流室活動の現状

留学生担当総括教員
古谷 礼子

はじめに：

令和4年を迎えてまもなく、新型コロナウイルス感染症・オミクロン株対応のため、2月末まで外国人留学生の新規入国の停止が延長されることになり、再度の入国制限の延長に落胆していました。しかし日本政府は観光目的以外の外国人の新規入国者数の上限を1日当たりの入国者数が3,500人から5,000人に引き上げることに踏み切りました。その結果3月1日から、大学などの管理の下、待機期間が短縮され、留学生の新規入国も認められました。コロナワクチンを3回接種してあり、尚且つ指定国・地域からの入国者には原則7日間の自宅待機を定めることとした上で、入国後3日目以降に自主的に受けた検査の結果が陰性であれば、行動制限解除となりました。油断はまだできない1年間ではありましたが、令和4年度はこの新しい措置によって全ての留学生の入国が実現されるという希望にあふれた年度となり、授業は原則対面で実施されました。以下、令和4年度の国際交流室における活動現状を報告します。

(1) 春学期の状況

令和4年度も入学式は新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じて学部生は4グループ、大学院生は2グループに分けて4月5日に式典が執り行われました。在留資格認定証明書の発行に遅れが生じたため、以下の表の通り、全ての新規渡日の留学生は入学式に間に合いませんでした。従って国際交流室が主催した新学期の行事はzoomで執り行うこととなりました。

4月入学予定者数	130	4月入学	108
		(内訳) 入学	42
		渡日できない	66
		入学時期の変更 (2022.10へ)	2
		(内訳) M1	1
		D1	1
		渡日できるまで入学手続き延期	20
		(内訳) 研究生	7
		特別研究学生・特別短期研修学生	13

令和4年度第1回学生支援・国際交流委員会資料（教務課提供）4月27日現在

4月7日に工学部・工学研究科の新入留学生オリエンテーション、28日に新入生の歓迎会である国際交流会をzoomで開催しました。また派遣留学説明会（「令和4年度派遣留学説明会」詳細：17頁）も

オンラインで4月27日に開催しました。2008年から開催しているNUSIP夏期集中講座（「自動車工学における最新技術と課題」）は今年度も開催を中止することになりましたが、代替案として、今年度は「NUSIP Alumni International Symposium 2022（NUSIP同窓生国際シンポジウム）」をオンラインで秋に開催しました。（「NUSIP同窓生国際シンポジウム2022の開催報告」詳細：7-11頁）。JUACEPには海外から学生5名が10週間研究のため滞在しました（「日米加協働教育プログラムその10」詳細：25頁）。もう一つの夏季プログラムである吉林大学学生夏季短期研修は8月1日から12日までzoomによるオンライン開催となりました。

(2) 秋学期の状況

工学部・工学研究科は秋学期に100名（G30学部留学生11名、大学院生40名、学部・大学院研究生26名、NUPACE交換留学生20名、中国国家公派3名）の新規入学留学生を迎えました。入場者数を豊田講堂の定員の約半分に制限して挙行された秋季入学式に先立って9月29日に工学部・工学研究科の新規渡日留学生を対象にしたオリエンテーションがオンラインで執り行われました。そして10月末に新学期恒例の新入生交流会「International Friendship Hour」を対面ではなく、オンラインで開催しました。

(3) オンラインから対面への移行期間

秋学期に入って、国際交流室が開催した行事は徐々にオンラインから対面へ移行していきました。「留学生の防災意識と防災対応力の向上に関する取り組み」（詳細：20頁）と「令和4年度 Speaking & Writing 講座」（詳細：16頁）は昨年に引き続き、オンラインで開催されましたが、「グローバル理工系人材のキャリア支援」（詳細：23頁）は対面とオンラインの両方で開催されました。そして「中部地区製造業企業交流」においては三州瓦メーカーの企業訪問とリニア・鉄道館の見学を実施しました（詳細：21頁）。

(4) その他の活動

対面に戻りつつあるものの、タシケントでの日本留学フェアは名古屋大学ウズベキスタン事務所の協力があつたため、現地へ出向くことなく、オンラインで10月17日に開催されました。また今年度の新しいイベントとして「国際交流室杯英語自己紹介動画コンテスト」（詳細：24頁）を開催しました。

最後に：

2年間国際交流室長として御教授、御指導頂いた戸田祐嗣先生が任期を了えられ、国際交流室は新しく室長に航空宇宙工学専攻の原進先生をお迎えして、令和5年度をスタートします。戸田先生には2年間いろいろ御指導を賜り、お世話になりました。末筆ながら、紙面をお借りして心からお礼を申し上げます。

「NUSIP Alumni International Symposium 2022」 Report

NUSIP 同窓生国際シンポジウム 2022 の開催報告

国際交流室・室員

合田 由美子

【はじめに】

最先端自動車工学をテーマに 2008 年のプログラム開始以来、順調に実績を積み重ねてきた NUSIP (Nagoya University Summer Intensive Program) であったが、2020 年初頭に発生したコロナ禍により、2020 年度と 2021 年度は中止となり、2022 年度も中止を余儀なくされた。

その代替案として、今年度は「NUSIP Alumni International Symposium 2022 (NUSIP 同窓生国際シンポジウム)」を開催することとなり、以下、主にこのシンポジウムについて報告する。

1. 開催経緯と趣旨

まず、年度当初に NUSIP サマープログラム実施委員会(以下「委員会」とする。)の関係者、NUSIP のオーガナイザー、国際交流室の教員、留学生係のメンバーが集まり、コロナ収束後も NUSIP の知名度を落とすことなくサステナブルにプログラムを実施し、一層の認知度を高めていくことを趣旨とした実施方法等を検討した。

その結果、2022 年度はオンラインによる NUSIP 同窓会を開催することが提案され、名称を「NUSIP Alumni International Symposium 2022 (以下「同窓会」とする。）」とし、委員会で開催が承認された。

2. 準備段階

委員会での承認後、5 回の関係者の打合せ(うち 1 回は委員会)を経て、同窓会開催の日時、構成、開催方法等を次の通り決定した。

1) アンケート調査と開催日時の決定

過去 5 年分の参加者を対象とする約 150 名に開催の趣旨、開催希望日時、同窓会での講演希望の有無などをメール送付した結果、約 100 名から回答が得られた。その結果を踏まえ、参加者が有職者であることや米国の冬時間の始まる直前の 11 月 5 日(土)の午前中が各国からの参加に最適と判断し、同日を開催日にした。

2) プログラム構成

プログラムの構成と開催方法は次のポスターの通りである。(なお、詳細なプログラム内容は、別紙「Outline and Program」参照のこと)。



NUSIP ALUMNI INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2022

November 5, 2022

10:00-12:00 [JST]

Online (Zoom & oVice)

We invite alumni to reunite and meet new friends as well as everyone who is interested in participation or program details to share information and network.

10:00-10:50 Opening remarks & Invited Talks
 10:50-11:35 Presentations by NUSIP Alumni
 11:35-12:00 Round table Discussion & Closing remarks
 12:00 - Free interaction time for reunion and networking (via [oVice](#))

[For program details click here](#)



Register form: <https://forms.gle/h1ByNwJbiz4q5jFn7>

Organized by the NUSIP Committee,
 School/Graduate School of Engineering, Nagoya University
advisors@int.eng.nagoya-u.ac.jp



3) 開催方法

午前のプログラムでは Zoom を利用することとした。招待講演者については、最近の自動車関係の研究を扱う教員に依頼した。同窓生の講演希望者については、事前に内容のダイジェストを提出してもらい、また、当日、参加ができない同窓生にはビデオメッセージによるスピーチも可能とした。

開催方法で特筆すべきは、午後からの同窓生による懇談会で、初の試みとして oVice(バーチャル空間を提供するシステム)の使用を決めたことである。oVice は、メタバース上で自分のアバターを自由に動かすことにより、相手のアバターとも会話することが可能となるシステムである。この oVice によるバーチャル空間には、ブレイクアウトルームを4部屋用意し、国際交流室の4名の教員が各部屋を担当することにした。

なお、この oVice の使用については、事前に参加者に使用方法を動画で提供するとともに、主催者側の教職員も複数回リハーサルの機会を設け本番に備えた。

3. 開催とその成果

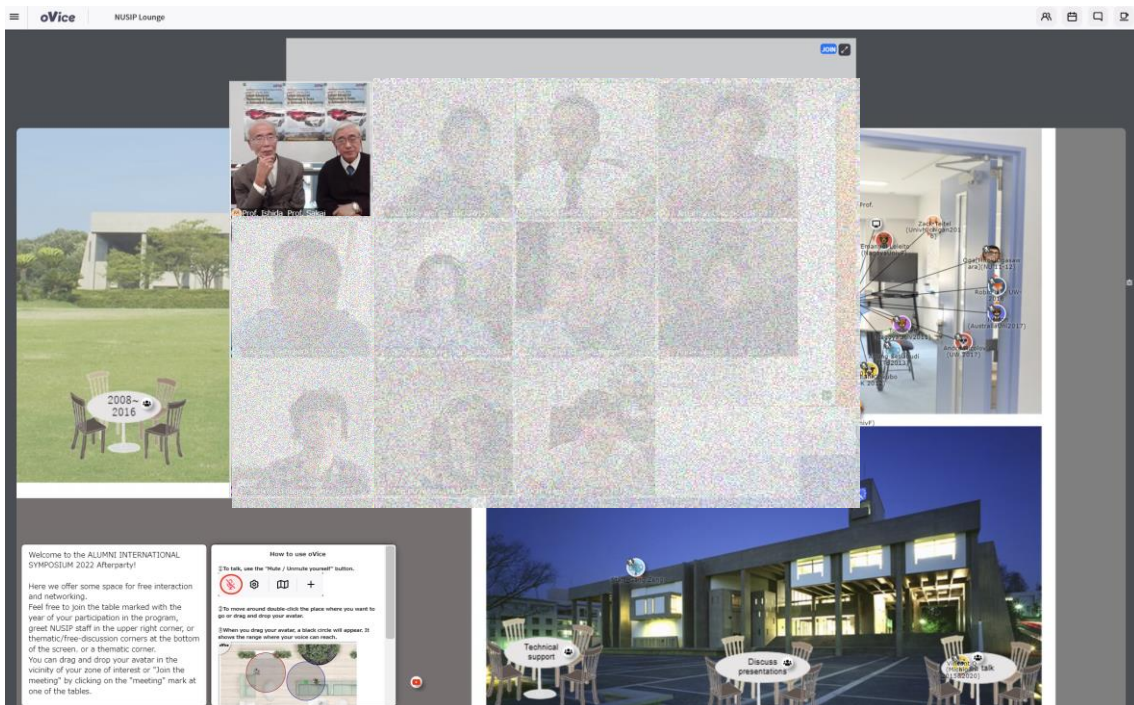
1) 開催当日

午前中の Zoom によるプログラムでは、約 60 名の NUSIP 同窓生が参加した。ファシリテーターのレイト講師の開催宣言後、宮崎誠一工学研究科長、NUSIP オルガナイザーの石田幸男特任教授が挨拶をした後、最初のセッションである招待講演として、鈴木達也教授(工学研究科)、青木宏文教授(未来社会創造機構・モビリティ研究所)の 2 名による、最新の自動車関係をテーマとした興味深い講演がなされた。

その後のセッションでは、同窓生 10 名によるプレゼンテーションと活発な意見交換が行われ、プレゼンテーションでは、NUSIP での経験を生かした自動車関係を扱った題目が多くみられた。

閉会の挨拶では、国際交流委員長の戸田祐嗣教授と次期 NUSIP オルガナイザーの酒井康彦特任教授が挨拶をし、ほぼ時間通り終了した。

午後の懇談会では oVice を使用し、約 30 名の同窓生が世代を超えて自由な交流をおこなった。事前のリハーサル効果もあり、参加者が戸惑うこともなく円滑に懇談会が進められた。



2) 開催の成果

今回の同窓会は、コロナ禍で 3 年間 NUSIP が開催できなかったことによる代替プログラムとしての提案であり、はたして、設定した開催日時に何名が参加してくれるのか、初のオンライン開催で順調にプログラムが進むのか等々の不安はあったが、結果として、予想以上の数の同窓生が参加してくれたことは、大きな成果といえよう。

これについては、同窓会報告書の編集後記でも酒井特任教授が触れている。

【インターナショナルな行事であるため、オンラインで実施するにしても時差のため、欧米には夏時間と冬時間があることや、国ごとに就労時間や余暇の過ごし方などが異なっているなどあり、いかにより時間帯を選出するかが大きな問題でした。結果的には日本時間で土曜日の午前中という時間帯になりましたが、数多くの参加者があったことは、NUSIP そのものの意義や思い出が、いかに強かったかの証左だと思いました。】 報告書:編集後記より抜粋

このように初のオンライン同窓会がほぼ成功裏に終わったのも、事前の関係者の万全な準備と広報、研究科長や国際交流委員長のバックアップ、そして快く講演を引き受けてくださった招待講演者の協力によるものである。

さらに参加者からは、NUSIP での楽しく素晴らしい経験、NUSIP 同窓生にネット上で再開した喜び、同窓会を開催したことへの感謝のコメントが数多く寄せられたことから、同窓会開催には意義があったと言える。また、同窓生からのコメントは、これからの NUSIP の継続的な実施への推進力になると思う。

今回の同窓会で得られた成果を機に定期的な開催を検討中である。

4. 今後の NUSIP

政府の水際対策の撤廃や新型コロナの5類への移行などが予定されていることもあり、2023年度のNUSIP開催が委員会で承認された。

3年間のブランクがあったものの、3月時点で約30名の応募者があり、選考の結果、25名の参加が確定している。いよいよ新年度はNUSIPの実施にむけ関係者一同が入念なプログラムの実施を計画しているところである。

残念ながら、過去にコンスタントに参加者を送ってきたミシガン大学をはじめとする複数の米国大学は、依然、2023年度の大学組織としてのアジア地区への学生派遣を見送っている。しかし、ミシガン大学からは、2024年度は参加させたく日程が決まれば早急に知らせてほしい旨の連絡を既に受けていることから、今後はよりグローバルで規模の大きなNUSIP開催となることが見込まれる。

一方、名古屋大学においては、全学的な戦略的パートナーシップ大学との連携強化や文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」への応募など一層の国際化を推進しているところであり、NUSIPもその一翼を担う位置づけとなっている。NUSIPは、今や工学部・工学研究科一部局のプログラムのみならず、本学の国際化に重要な役割を果たすことを期待されている。

改めて、これまでのNUSIP関係者の取り組み、それによるプログラム内容の充実さと認知度の高さを実感するところである。

【最後に】

今回の同窓会の結果からもわかるように、多くの同窓生がNUSIPの経験を大切に記憶し、喜んで参加に応じたのは、NUSIPの立ち上げから一貫してプログラムの企画・運営に携わり、さらには参加学生に親身に対応してきた石田特任教授の尽力と功績が大きい。

しかしながら、同特任教授は2023年度のNUSIP再開を見ることなくこの3月に逝去された。ぜひとも、再開したNUSIPを見ていただきたかった。

今後は、酒井特任教授を中心とした新体制のもと、関係者一同が企画・運営に取り組み、世界中から優秀な学生が参加するより魅力あるNUSIPを目指すところである。

石田幸男特任教授のご冥福を心からお祈りいたします。

NUSIP Alumni International Symposium 2022
Outline and Program

DATE & TIME: 10:00-12:00 [JST] on Saturday, November 5, 2022

VENUE: Online (Zoom & oVice)

MISSION

We aim to introduce our alumni to the cutting age technology in the field of automotive engineering and to affirm the program value through contemplating the past achievements. Also, the Symposium aims to spread information about the program and gain more publicity.

PROGRAM

10:00-10:10 Opening remarks

- Opening declaration from facilitator: Dr. Emanuel LELEITO
- Opening address from the Dean of the Graduate School of Engineering, NU: Prof. Seiichi MIYAZAKI
- Message from the organizer of NUSIP: Prof. Yukio ISHIDA

10:10-10:50 Invited Talks

- Vice Dean of the Graduate School of Engineering, NU: Prof. Tatsuya SUZUKI
“Perspectives for future intelligent vehicle design”
- Global Research Institute for Mobility in Society, NU: Prof. Hirofumi AOKI
“Towards a mobility society where elderly people can drive safer”

10:50-11:35 Presentations by NUSIP Alumni

11:35-11:55 Round table Discussion

“Keeping NUSIP aligned with current and future learning needs”

11:55-12:00 Closing remarks

Closing address by the NUSIP Program Executive Chairperson, NU: Prof. Yuji TODA
Message from the new organizer of NUSIP: Prof. Yasuhiko SAKAI

12:00- Free interaction time for reunion and networking

工学研究科における国際交流の状況について：

工学研究科関連学術交流協定一覧

総務課第二人事係長
市川 剛

協定校名	国（地域）名	締結年月	
		(部局間)	(全学)
ミシガン大学工学部	アメリカ	1980.5	
シェフィールド大学	イギリス		1985.1
中南大学	中国	1985.3	
シドニー大学	オーストラリア		1985.4
ブラウンシュバイク工科大学	ドイツ		1985.9
北京工業大学	中国	1986.9	
清華大学	中国		1989.3
東北大学	中国		2001.6
モスクワ大学物理学部	ロシア	1993.12	
ワルシャワ工科大学	ポーランド	1996.7	
華中科技大学	中国		1996.12
モスクワ工業物理大学	ロシア	1998.6	
コロラド鉱山大学	アメリカ	1998.7	
西安交通大学	中国		1999.1
ポンゼショセ工科大学	フランス		2002.7
慶尚大学校	韓国		1999.11

哈爾濱工業大学	中国		2002.7
浙江大学	中国		2000.2
ケムニッツ工科大学	ドイツ		2000.4
南オーストラリア大学	オーストラリア		2004.10
フリンダース大学	オーストラリア		2004.9
アデレード大学	オーストラリア		2004.10
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	アメリカ		2000.7
ケンタッキー大学	アメリカ		2008.2
韓国海洋大学校海事大学及び工科大学	韓国		2015.11
インド工科大学マドラス校	インド	2001.2	
上海交通大学	中国		2001.2
同済大学	中国		2001.2
北京大学	中国		2002.1
モナシュ大学	オーストラリア		2003.7
南京航空航天大学	中国	2003.10	
中国科学技術大学	中国		2003.10
漢陽大学校	韓国		2004.6
ロシア科学アカデミーコンピュータ支援設計研究所	ロシア	2005.2	
ルール大学ボーフム校物理天文学部及び電子情報学部	ドイツ	2011.3	
釜山大学校工学部	韓国	2006.12	
カリフォルニア大学ロスアンゼルス校工学・応用科学部	アメリカ		2008.4
バレ・グアテマラ大学工学部	グアテマラ	2008.4	
タンタ大学工学部	エジプト	2008.4	

インドネシア大学	インドネシア		2019.6
慶北大学校工学部	韓国	2009.4	
中国科学院上海セラミックス研究所	中国	2009.6	
成均館大学校	韓国		2009.7
※ダルムシュタット工科大学土木工学・測地学科	ドイツ	2010.5	
瀋陽工業大学	中国	2010.11	
※科学産業研究機構 (CSIRO)	オーストラリア	2011.8	
※北京師範大学 減災応急管理学院・地表過程資源生態重点研究所	中国	2011.11	
アーヘン工科大学	ドイツ		2012.5
※マンチェスター大学 環境開発研究科	イギリス	2012.5	
台湾国立陽明交通大学電気電子コンピュータ工学院	台湾	2021.2	
スラバヤ工科大学	インドネシア	2013.9	
※クラゲンフルト大学ソーシャルエコロジー研究所	オーストリア	2013.11	
ナイロビ大学	ケニア		2013.12
ヨハネスグーテンベルグ大学マインツ (マインツ大学) 物理・数学・コンピュータ学部	ドイツ	2014.10	
ワシントン大学工学部	アメリカ	2021.8	
ミシガン大学工学部高分子科学工学研究センター	アメリカ	2015.9	
ミシガン大学化学科	アメリカ	2015.11	
※デラサール大学工学部	フィリピン	2015.12	
ポーランド科学アカデミー高圧研究所	ポーランド		2015.12
ヨッフエ研究所	ロシア		2016.1
ロシア科学アカデミールジャーノフ半導体研究所	ロシア		2016.2

#クレルモンオーベルニュ大学	フランス	2023.3	
#イノベーションズ フォー ハイ パフォーマンス マイクロエレクトロニクス (IHP)	ドイツ	2018.2	
ヌエボ・レオン自治大学	メキシコ	2018.2	
※天津大学建築学院	中国	2021.2	
※パドヴァ大学土木環境建築工学科	イタリア	2018.5	
#ユーリッヒ総合研究機構	ドイツ	2018.5	
ローマ大学サピエンツァ	イタリア		2019.6
#パドヴァ大学情報工学部門	イタリア	2020.2	
大連理工大学建設工学部	中国	2020.5	
*オハイオ州立大学 データ変換分析研究所	アメリカ	2020.7	
マレーシアマラッカ技術大学	マレーシア	2020.9	
アルバータ大学	カナダ		2021.2
bミュンスター大学化学薬学部、有機化学研究所、生物化学研究所及び医薬化学研究所	ドイツ	2022.1	
モントリオール理工科大学	カナダ	2022.11	

(2023年4月1日現在)

※大学院環境学研究科と共同で締結されている。

#未来材料・システム研究所と共同で締結されている。

*情報学研究科、医学系研究科と共同で締結されている。

b 理学研究科・物質科学国際研究センターと共同で締結されている。

令和4年度 「Speaking & Writing 講座」



留学生専門教育担当教員

レレイト エマニュエル
LELEITO Emanuel

概要

本講座は工学部・工学研究科の学生の英語力全般（Reading、Listening、Speaking、Writing の4技能）の大幅な向上を目標とし、名古屋大学工学部・工学研究科国際交流室教員と IELTS 専門講師が指導を行っています。IELTS の形式に沿った教材を用いた練習および教員からのフィードバックにより、個人では勉強しにくいスピーキングとライティングを重点的に取り扱います。採点基準やスコアの上げ方等を指導するとともに、講座後も自立して英語学習できるようにノウハウを伝授します。

内容と詳細日程

火曜日の講座（IELTS 専門講師が指導）では IELTS 英語テストの「スピーキング&ライティング」セクションの学習方法を中心に行った。水曜日と木曜日の英会話講座（TA2名+レレイト）では、火曜日の講座の復習と一般的な英会話英語の強化を中心に行った。必要に応じて、個別対応で学生と日時を調整し「Academic Writing & Presentation」勉強会を実施した。

前期：【IELTS 講座 10 回（火 18:15～19:45）、英会話講座・個別相談 10 回（水・木 18:15～19:45）】

5月：IELTS（5月：17日、24日、31日）、英会話（18日、19日、25日、26日）

6月：IELTS（7日、14日、21日、28日）、英会話（1日、2日、8日、9日、15日、16日、22日、23日、29日、30日）

7月：IELTS（5日、12日、19日）、英会話（6日、7日、13日、14日）

※派遣留学説明会（4月27日）：講座に応募したい学生に海外留学プログラムの説明・相談会に参加し、名古屋大学の留学制度等の知識を深める（海外留学室による全学留学プログラム、工学部・工学研究科の部局間協定、「オンライン留学」等の紹介、海外留学体験者の体験談、工学部・工学研究科の英語力強化講座の説明）

後期：【IELTS 講座 10 回（火 18:15～19:45）、英会話講座・個別相談 10 回（金 18:15～19:45）】

11月：IELTS（15日、22日、29日）

12月：IELTS（6日、13日、20日）、英会話（2日、9日、16日、23日）

01月：IELTS（10日、17日）、英会話（6日、13日、20日）

02月：IELTS（7日、14日）、英会話（3日、10日、17日、24日）

最後に

昨年度は受講生の多くから「もっと英語で話す機会を増やしたい」という強い要望があり、今年度はネイティブレベルの英語力を持つ留学生を2名 TA として導入した。また、学生がもっと楽しく英語に触れるよう、今年度の一部の参加学生の要望により、Task-based Language Teaching（例えば、英語で Computer programming に特化した勉強会等）の活動を今後実験的に導入する。

令和4年度 派遣留学説明会



留学生専門教育担当講師
曾 剛

工学部・工学研究科に在籍する学生を対象に、令和4年4月27日にオンラインで派遣留学説明会を開催しました。今年もコロナウィルスの感染を配慮し、ZOOMを利用してオンラインで実施しました。この説明会は、海外の大学・大学院留学を希望する学生に対し、留学に関する情報の提供と制度の説明を行うことを目的としています。

まず、国際交流室古谷礼子准教授から、工学部・工学研究科の派遣留学制度や留学先と申請手続きに関する紹介がありました。具体的には、①留学先、②先輩たちの留学先、③日米協働教育プログラム(JUACEP)、④Online Developing Cultural Competence Class、⑤モントリオール理工科大学への研究インターンシップ、⑥学内プチ留学 NUSIP プログラム、⑦IELTS スピーキング・ライティング講座、⑧米国大学院留学のための奨学金制度、など留学に関する様々な実用的な情報が紹介されました。次に、本学国際教育交流センター海外留学部門の岩城奈巳教授から、派遣留学全体に関する説明がありました。岩城教授は交換留学の種類(特に i 留学)、交換留学の意義、交換留学関連奨学金、単位認定、短期研修プログラム、留学に向けての準備、学内選考と学内相談窓口等について説明されました。最後に、物質プロセス工学専攻修士1年生の深見勇馬さんから、交換留学経験に基づく体験談が紹介されました。深見さんは、リーズ大学での留学生活や複数の海外留学経験を中心に紹介されました。特に、留学中の様子、留学後の生活、留学の準備、留学中の授業、寮生活、食生活、課外活動などについて、自分の経験を共有しました。

今回の説明会には18名(博士後期課程1名、学部生17名)が参加しました。参加者の専門と学年は表1に示されています。

学科別参加人数

学年	物理	化学生命	電気電子 情報	マテリ アル工学	エネル ギー理工	機械航空 宇宙	環境土木 建築	合計
B1	0	1	0	1	0	6	0	8
B2	0	0	1	0	0	1	1	3
B3	0	0	1	1	0	2	0	4
B4	0	1	0	0	0	0	1	2
M	0	1	0	0	0	0	0	1
D	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	3	2	2	0	9	2	18

新型コロナウイルスの影響で、海外留学が実施困難な状況が続いている中、参加者が少なかったことは、渡航が制限されている実態によるものと考えられます。一方、多くの一年生が参加したことから、海外渡航の状況が改善すれば、派遣留学の増加が期待できると考えています。

令和4年度 「工学概論 III」



留学生専門教育担当教員

レレイト エマニュエル
LELEITO Emanuel

The Science and Technology in Japan course (Japanese Name:工学概論第3「日本の科学と技術」) introduces the history, current state and the future prospects of R&D (research and development) in various sectors related to the engineering field in Japan through lectures, video presentations and/or company visits. The class consists of omnibus-style lectures, all provided in English. The course contents were divided into three parts covering the 3 different themes related with the specialty of the 3 lecturers in charge.

Course Schedule and Topics Covered:

Week 1: Orientation

Weeks 2 - 5: Societal, Cultural and Economic Context of Engineering Practice in Japan (Dina GRIB)

The first part of this course introduces you to the Science, Technology and Society studies (STS) field. With a focus on industrial tourism, it provides insights on how Japanese cultural, economic, societal and political tradition affects STI and vice versa. The participants are invited to conduct a mini case study using online materials, share and discuss their findings in class.

Weeks 6 - 9: Science, Technology, and Innovations in Embedded Computing Systems (Gang ZENG)

- This lecture gives an overview of the embedded computing systems related technologies in Japan. In particular, the latest innovations on the low-energy and automotive applications will be introduced.
- The students are asked to participate in group discussion to share their ideas and thoughts about energy conservation and future automobiles.

Weeks 10 - 13: Science, Technology, and Innovation for Disaster Risk Reduction (Emanuel LELEITO)

- This lecture gives students an overview of the Scientific and Technology Innovations that have contributed to Japan's leading role in Disaster Risk Reduction (DRR).
- DRR related discussions and presentation in class will help students exercise their creative thinking and problem-solving skills.

Weeks 14-15: Final Presentations

The course focuses on “innovation” as a common reference point for integrating the 3 themes and creating a logical connection between the content provided by three lecturers. 19 students registered and completed the class. 17 were international students and 2 were Japanese students. Among the international students, 7 were exchange students in the NUPACE program 10 were regular full-time students (including G30) in the School of Engineering. The student performance in the course was evaluated based on Reports by each lecturer (60%) and a Final Presentation (40%). For the final presentations, the students chose a topic of interest from the 3 themes introduced in the class and made a 3-to-5-minute presentation on the topic (with additional time for Q&A).

令和4年度 「テクニカルライティング」



留学生専門教育担当講師
曾 剛

テクニカルライティングは、名古屋大学工学部専門系関連科目として、2020年春学期から四年生を対象に開講されています。この授業は、他者に科学技術的内容を英語で発信する際に必要な論理的考え方とその表現手法を学び、科学技術の英語によるライティング及びプレゼンテーションに応用することを目的としています。また、この授業を履修することで、以下の四つの目標を達成することを目指しています。①論理的な考え方を理解し、課題を構造化できること。②問題解決に至る文書構造を理解し、構成できること。③科学技術論文の要約を英語で書けること。④上記のスキルを英語でプレゼンテーションに応用できること。この講義は、国際交流室の留学生専門教育担当教員によって実施され、授業の主な内容は以下の通りです。

1. リサーチスキル(担当:グリブ ディーナ講師)
 - 1.1 情報収集と批判的読み
 - 1.2 論理的思考と論理の構造化
 - 1.3 盗用・剽窃を避けるコツ
2. ライティングスキル(担当:曾剛講師)
 - 2.1 文書構造の理解
 - 2.2 文書構造の構成
 - 2.3 アブストラクトを英語で書く
3. プレゼンテーションスキル(担当:レレイト エマニュエル講師)
 - 3.1 スピーチ原稿の作成
 - 3.2 スライドの作成と発表
 - 3.3 質疑応答の効果的な対応方法

コロナウイルスの影響で、今年度もやむを得ないZOOMを使用した遠隔授業となりました。14名の学生が最後まで受講しました。講師陣は、学生たちが楽しく遠隔授業に参加できるよう、様々な工夫をしました。学習が資料のみでも可能となるよう、講義資料を詳細に作成し充実させました。Zoomのオンラインクイズ、グループディスカッション、発表機能、そしてグーグルドキュメントのコメントと回答機能を活用して、オンライン授業が双方向となるよう工夫しました。

授業アンケートの結果によると、遠隔授業にも関わらず、学生全員から「満足」または「どちらかという満足」との回答をいただきました。また、遠隔授業の利点に関して、「場所に縛られない」や「受講に集中できる」という回答がありました。さらに、「今回の遠隔講義と通常講義(対面講義)、どちらの講義形態の方が講義内容の理解が進むと思いますか」の質問に対して、「今回の遠隔授業」という回答を複数いただきました。ただし、プレゼンテーションの授業に関して、対面での実施を希望する声もあり、今後、対面授業の必要性も感じられました。

令和4年度 留学生の防災意識と防災対応力の向上に関する取り組み



留学生専門教育担当教員

レレイト エマニュエル
LELEITO Emanuel

概要

南海トラフ地震など大規模な自然災害のみならず、日常的な大学生活の安全確保も含めて、非常時の留学生の安全対策と教育・研究および生活の維持は重要な課題である。そのためには、大学側の対策に加え、留学生の防災意識の向上や災害対応力の強化が必須となる。本プロジェクトは、言葉や文化の相違のために災害等の非常時の対応が難しいことがある留学生に対して、日本の災害・防災の現状と問題点を学ぶ機会を提供し、防災力向上に向けた自発的行動を誘発することを目的としている。このことは同時に、大学の防災体制強化や非常対応の準備にもなり、また日本の社会や文化の深い理解や地域との交流につながる。さらには、留学生をはじめ外国人に対応した防災・減災社会形成の推進に貢献することができる。

本取り組みは、以上の背景のもとで、近年の災害発生や日本社会の対応、留学生をとりまく状況や意識の変化などを勘案して、内容を更新しつつ 2012 年度から継続してきた。これまでに多数の留学生が参加しており、その成果は防災訓練などに活用され、地域防災の取り組みにも貢献している。

実施状況と成果:

留学生の防災意識向上、日本の防災文化の体感、災害時に役立つ知識やスキル習得を目的とした下記の防災教育活動を実施した。

① 防災講座・ワークショップ・セミナー(4回、オンライン:ライブ配信):

大学(ILAS)で開講している防災講義「Preparedness for imminent natural disasters」の内容の一部を再構成し、留学生の防災意識啓発に役立つセミナーとして一般的公開した(2回)。また、防災専門家として千種警察から講師をお招きして「災害時の警察活動を知ってもらおう」という題名でセミナーを実施した。加えて、3月11日(東日本大震災)に、NHK 地球ラジオの特別番組「防災 Living in Japan」でレレイト講師が日本の防災や外国人の困りごとについて解説した。

② 教育資料の作成について(3回、オンライン:オンデマンド配信):

防災イベントに合わせ、留学生グループの協力を得て防災ビデオ3本を作成し、学内限定で留学生と共有した(10月13日国際防災デーは「防災デーとは」のビデオ、10月28日の名古屋大学地震防災訓練の際は「防災訓練とは」のビデオ、11月5日の世界津波の日は「非常用持ち出し袋について」のビデオ)。

③ 防災施設のスタディツアーについて(1回、大型貸切バス利用):

飛島村津波避難所(北拠点避難所)、名古屋港防災センター、名古屋港ガーデンふ頭(海洋博物館・展望台)を訪問し、行政と地域住民による防災取組について学ぶとともに、地域の経済を支える港の防災対策について学んだ。

以上、本年度の成果を踏まえ、特に ILAS の英語の防災講義や NHK 国際放送との取組の活用方法について検討し、留学生防災教育を更に充実させる。

令和4年度 中部地区製造業企業交流会事業



留学生専門教育担当講師
グリブ ディーナ

本事業では、工学部・工学研究科の留学生を主な対象とし、開発・生産の拠点を中部地方に置く企業・工場見学を実施することにより、日本企業および産学連携の取り組みへの理解促進を目的としている。2019年度以来の復帰に至り、下記の通り計4回の工場見学ツアーを実施された。

【NUPACEの留学生向け講義のための工場見学】

- 2022年11月15日「電気電子情報先端工学概論」参加学生14名
見学施設：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所
- 2022年12月16日「環境土木・建築概論」参加学生8名
見学施設：E-MAC技術研修センター
- 2023年1月20日「環境土木・建築概論」参加学生8名
見学施設：川島ハイウェイオアシス(河川環境楽園)

【工学部国際交流室主催による「[移]食住の伝統と最先端技術」日帰りバスツアー】

- 2023年2月15日工学部・工学研究科在籍留学生20名参加

見学施設：

- ① 株式会社 鶴弥 工場見学、
- ② リニア・鉄道館 見学

参加学生にとって、彼らが日々取り組んでいる大学の講義・研究の先に位置する就職活動、製造業界で働くことに対する意識を高めるきっかけとなった。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベントが中止される中、久しぶりのフィールドツアーがモチベーション向上につながり、専門分野横断のネットワーキングの場となった声も寄せられた。

One Day Bus Tour
organized by NU School/ Grad. School of Engineering (AEQ)

Tradition & Cutting-edge Technology in Everyday Life

Wednesday, February 15 参加費：無料
Participation is free!

8:50 Departure from NU Toyoda Auditorium

- Meeting time 8:45 a.m.
- Wear easy-to-move and warm clothes and shoes
- Bring your lunch with you or be ready to buy it during the free time

10:00-12:00 **TSURUYA CO.,LTD. Factory Tour**

- Japan's leading manufacturing and sales company of kawara (ceramic roofing tiles) for residential roofs.
- Has a history of more than 130 years since its foundation and actively employs modern technologies and state-of-the-art equipment in the manufacturing process.

Image from <https://www.ty110.com/>

12:30-14:00 **Free time at Agricultural center**

- Feel free to stroll around the Farmers Market, visit Restaurants & Cafes or enjoy Japanese Hot springs.

Image from <http://www.agritown.co.jp/index.php>

15:00-16:30 **Visit to SCMAGLEV and Railway Park**

- Hands-on museum looking at the past, present and future of Japan's railway systems and rolling stock.

Image from <https://museum.jp-central.co.jp/en/>

Approx. 18:00 arrival at NU Toyoda Auditorium

Register from: <https://forms.gle/g9K6cxks19LjAG68>
※ Registration is open till Feb. 10 or till all the 15 seats are booked.

工学部工学研究科国際交流室主催
日帰りバスツアー

移食住の 伝統と最先端技術

2023年2月15日(水) 参加費：無料
Participation is free!

8:50 名古屋大学豊田講堂前から出発

- 集合時間は、午前8時45分
- 動きやすく、気温に合わせた服装・靴で来てください
- 昼食はお弁当持参もしくは、自由時間に各自購入するようご準備ください

10:00-12:00 **株式会社 鶴弥 工場見学**

- 130年以上の歴史を誇る、国内最大手の瓦(かわら)メーカーで、地震や台風の原因に強い瓦製造をはじめ、積極的に最先端技術を導入中

Image from <https://www.ty110.com/>

12:30-14:00 **J A あぐりタウンげんきの郷 で自由時間**

- ファーマーズマーケット・飲食店・天然温泉等を各自自由にお楽しみいただけます

Image from <http://www.agritown.co.jp/index.php>

15:00-16:30 **リニア・鉄道館 見学**

- 鉄道に関する技術の進歩を展示する「鉄道保存展示施設」

Image from <https://museum.jp-central.co.jp/en/>

18:00までに名古屋大学豊田講堂前に到着

参加登録: <https://forms.gle/g9K6cxks19LjAG68>
※ 登録締切は2月10日(金)、ただし、定員15名に達し次第、締め切ります。

英語による留学生向けものづくり公開講座の報告



機械システム工学専攻 教授
創造工学センター長
井上 剛志

創造工学センターの「留学生向けものづくり講座」は、学内に在籍する留学生が参加できる実習・体験型の講座です。スタッフによる英語でのレクチャーが好評を博し、今年で20回目を迎えました。例年7月に「エンジンモデルの分解・組立」講座を、12月に「ガラス工作」講座を実施しています。コロナ禍での中止を経て、2022年度はコロナ前と同様の実施に回復しました。7月にはJUACEP留学生を対象に「エンジン講座」を開講、12月には学内留学生向けに4年ぶりに「ガラス講座」を開講しました。さらに、2月には留学生支援事業の助成を受け、留学生向けに初めて「電子制御コース」を開講でき、計3回の留学生ものづくり講座を実施できました。参加留学生の国籍も、米国、ドイツ、インドネシア、中国、ボリビア、韓国、フィリピン、タイ、マレーシア、と国際色豊かとなりました。

この留学生向けの「電子制御コース」の新規開講は当センターとしても特筆すべきニュースです。コロナ禍の自粛期間中に、ものづくり講座に携わる技術部スタッフとともに「電子制御コース」の企画・開発に取り組みました。このコースは6名の参加者が一人1台の Raspberry Pi を使って、AI スピーカーの概要を学ぶものです。英語による実施に向けては今年度から当センタースタッフとして兼務いただいているレイト講師にも大きな貢献をいただきました。参加者からは、「大変貴重な経験になった」「講義内容が専門的すぎず分かりやすかった」「プログラミングとコーディングへの興味が高まった」等、大変高い評価・感想が寄せられました。これにより、当センターのものづくり講座は「機械工作」「ガラス工作」「電子制御」の3講座となり、多様な対面学習の機会を提供できる体制が整いました。今後も当センターの同活動が名古屋大学の国際交流の一助となれば幸いです。

最後に、このような取り組みに対し、常に惜しみないご支援をいただいております工学研究科国際交流室のご関係者の皆様に心より感謝の意を表します。



令和4年度 グローバル理工系人材のためのキャリア形成支援事業



留学生専門教育担当講師
グリブ ディーナ

本事業は、2020年度より実施しており、理工系学生に特化した日本での就職支援ならびにキャリア開発のために求められる社会人基礎力の向上を目的としている。2022年度は、学生支援本部キャリアサポート室をはじめ各部署と連携しながら、工学部・工学研究科および環境学研究科の地球環境科学専攻と都市環境学専攻に在籍している留学生を対象に下記のとおり実施した。

【NU キャリアサポート室の相談員による部局向けガイダンス】

2022年10月19日(水)

工学系留学生のキャリアデザイン& 就活スタートガイダンス

【外部講師によるセミナー&個別相談会】

2022年10月25日(火)ポストコロナの就活を勝ち抜く

2022年12月16日(月)グループ・ディスカッション講座

「社会人になる前に知っておきたい」特集:

2023年3月10日(金)日本の企業に生き残るビジネスマナー

2023年3月11日(土)「自己ブランド開発講座」



【個別相談会】

2022年11月28日、12月12日、2023年1月27日、2月8日、3月6日、3月17日

【工学研究科修了生との交流会】

2023年1月21日(土)2020年度修了生との英語による交流会

本事業は、部局ベースで参加学生一人一人のニーズに付き添うよう心がけた企画であり、先輩との交流、1対1相談、少人数ワークショップが中心となった。ただし、人数およびテーマ上で制限の無いイベントは、他部局の学生にも開放しながら、工学部・工学研究科内各専攻分野のキャリア支援担当教員との連携も図った。また、もう一つの特色として、工学系留学生の就職活動における最大の悩みの一つとして語学能力が目立つため、英語話者について配慮して、日本語のみならず英語による情報伝達にも力を入れた。

本事業と関連する共同研究活動の成果は、下記の通り留学生教育学会で発表されている。
坂口真美・グリブ ディーナ・安井永子(2023)「外国人留学生のキャリア支援における「新卒採用枠」と「中途採用枠」の活用に関する一考察」第28留学生教育学会・年次大会、於東京外国語大学、口頭発表

名古屋大学工学部国際交流室杯 英語自己紹介動画コンテスト



留学生専門教育担当講師
グリブ ディーナ

2022年度は、新型コロナウイルス世界的流行の影響により、海外留学の機会が限定的であった状況を鑑みて、工学部・工学研究科在籍生の英語学習へのモチベーション向上を目指して、昨年度の工学部国際交流室杯英語スピーチコンテストの代わりに英語自己紹介動画コンテストを企画した。

実施につき、古谷准教授のご協力のもとで研究科長裁量経費に応募し、景品に充当した。

参加募集は、国際交流室公式ホームページと SNS での案内とともに、各専攻の事務室経由で行われた。

参加者は少人数であったが、審査は4名の審査員により厳密に実施され、優勝1名と準優勝2名を決められた。審査員より、参加者の高い英語力が賞賛されるとともに、各参加者に対して、英語力向上や動画撮影のコツに関する助言が与えられ、教育効果が図られた。

授賞式は、2023年4月5日に行われ、2022年度国際交流学生支援委員長、戸田教授より、表彰状とともに名大グッズの記念品が贈呈された。

参加者から「このコンテストの参加したことで英語の練習になったことや、英語での自己紹介・プレゼンに関する知識を修得することができたことに十分に意味があると感じました」との感想が寄せられた。



応募締切 2023/2/22 (水) 17:00

企画の趣旨 About the contest:
近年、自己紹介動画もしくは自己PR動画の提出が求められる場面が多くなってきました。本コンテストでは、将来必要な時に使うためにも、1分半の英語の自己紹介動画をご準備・ご投稿いただきます。審査員のコメントをお返ししますので、改善にご活用ください。
Self introduction video, or about me video, or video CV is used more and more in various settings. We invite you to shoot a 90-second video introducing yourself professionally that you can use when required and get feedback from our jury to brush it up.

*** More about Video CV creation and examples:**

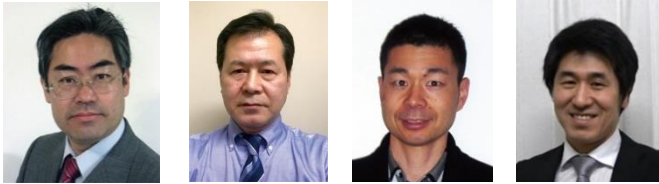
応募資格 Eligibility:
名古屋大学工学部・工学研究科の在籍生（英母語話者は除く）
NU S/GS of Engineering students (Only non-native speakers of English)

参加特典 Why participate?
・優勝者は工学部国際交流室主催のIELTS対策講座+英会話クラスに無料で参加できる
・参加者全員が表彰状と記念品がもらえる
・参加者全員が内容・構成、英語力、プレゼンカに対して審査員のコメントがもらえる
-Winner will be awarded with a right to participate in the IELTS preparation & English communication class hosted by IAEO.
-All the participants will receive the feedback from the jury on content & structure, linguistic skills, and presentation skills.
-All the participants will receive certificates and memorable gifts.

応募・動画投稿先 Apply and submit your movie via
<https://forms.gle/EFNE2QMTyyQJj1RCA>

お問い合わせ：工学部国際交流室 グリブ ディーナ
grib@nagoya-u.jp , 052-789-3179 , 工学部3号館南棟579号室

「日米加協働教育プログラム」 その10



マイクロ・ナノ機械理工学専攻

教授 梅原 徳次

准教授 野老 山貴行

機械システム工学専攻

教授 松本 敏郎

教授 伊藤 靖仁

1. はじめに

「修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム」は、2011年11月に大学の世界展開力事業として採択され、2016年3月末までの5年間に、ミシガン大学・UCLAと名古屋大学の工学研究科の間で大学院生及び教員の派遣・受入を行って参りました。文科省からの補助事業終了後の2016年4月以降も、工学研究科および全学の支援をいただき自立プログラムとして実施しています。2018年よりカナダ・トロント大学が、また2022年にはアメリカ・ノースカロライナ州立大学とカナダ・モントリオール理工科大学が交流対象校として加わりました。

昨年度の国際交流室報に「修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム(その9)」として、パンデミック発生以来初めての名大からの派遣学生についてご報告いたしました。2022年は、内外共に留学実施の不安が残る中ではありましたが、外国で勉強したいという熱意ある学生を相互に対面で受入れ・派遣することができました。ここに報告させていただきます。

なお、他の内容を含めて、今までに実行したプログラムの実績の詳細は、本プログラムのHPをご覧ください。<https://www.juacep.engg.nagoya-u.ac.jp/index.html>

2. サマープログラムにおける海外学生の受入

(2022年6月17日～2022年8月31日)

ノースカロライナ州立大学から3名の他、NUPACEとして入学したミュンヘン工科大学とバンドン工科大学からの各1名、計5名がJUACEPプログラムに参加しました。約3ヶ月間、各自の専門の研究室に配属されて、研究活動、日本語授業、ものづくり実習(エンジンの分解組立)、及び東海地区のものづくりに関わる資料館(航空博物館、トヨタ産業技術記念館など)を訪れました。

受入期間の締め括りに、名大での研究活動の成果報告ワークショップが開催され、各学生の指導教員や研究室メンバーも参加して活発な質疑応答が交わされました。

学生の各種イベントにおける様子は図1～3をご覧ください。

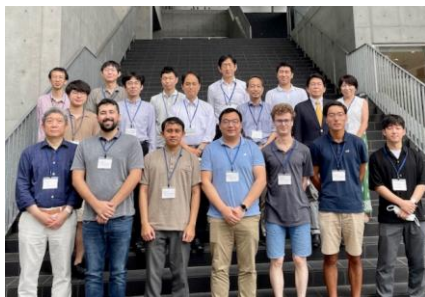


図1. 開講式



図2. 内燃機関分解組立



図3. 犬山城見学

3. 名古屋大学からモントリオール理工科大学および UCLA への学生派遣

(2022年5月～9月 モントリオール理工科大学、8月～2月 UCLA 中期コース)

名古屋大学からは、5月にモントリオール理工科大学での研究インターンシップ生を1名派遣、また8月以降 UCLA に中期コースとして2名派遣しました。それぞれが派遣先大学の指導教員の下で研究プロジェクトに参加して活動を行い、成果報告書を完成させた他、帰国後のワークショップで英語でプレゼンテーションを行い、大学院の単位が付与されました。派遣学生の様子は図4～6をご覧ください。



図4. PolyMTL 留学修了式



図5. グランドキャニオンにて



図6. 第29回 JUACEP ワークショップ

4. おわりに

本プログラムは、受入学生には名古屋大学の工学研究科の単位を付与し、相手大学によっては単位互換も可能です。また派遣学生は1学期以上の留学をメインとしていますが、留年することなく単位取得が可能となっています。

これまでのプログラムの実施により、ミシガン大学及び UCLA で本プログラムが広く周知されているだけでなく、この数年で新たに交流対象大学が増えて、名大生にとっては選択の幅が広がっています。従来の座学を中心とした短期留学とは異なり、世界トップクラスの大学で各研究チームに学生が分散し、各国から集まった学生や研究者に交じって研究を行う本プログラムは、名大生にとってチャレンジングですが、参加学生は代え難い経験と大きな成長を遂げて帰国します。工学研究科の先生方におかれましては、引き続き、学生の受入・派遣においてご理解、ご協力頂けますようお願い申し上げます。

留学体験記 : Findings through JUACEP in Polytechnique Montréal



Hirofumi Amada
Chemical Systems Engineering

I can say that nothing could be comparable with what I experienced in Polytechnique Montreal. I studied self-healing property of PEDOT:PSS, which is one of the most common electro conductive polymers. Likewise, each student studies the material from his/her own perspective. One of intern students is a professional violinist and she was working on the development of sensors to detect the pressure of fingers while she is playing the violin. That is why I listened to solo-violin concert while I was working on my project sometimes, which is one of the most unique experiences I can never have in Japan. I really enjoyed my research and learned how I can cooperate with people from other countries.



Also, I really enjoyed the cultural experience in Montreal with my friends. Historically, Quebec province was colonized by France. That is why people in Montreal have French roots and there are lots of French culture all over the city. For example, what makes me really impressed is that I saw lots of artworks everywhere in the city. There are some paintings on the wall of high building (normally building is also European style) or sometimes on a street like shown in the pictures below. Also, there are beautiful parks everywhere in Montreal where many people have dinner, do BBQ or whatever they want. Normally I go to one of the parks with my friends with some cheese, cookies and

some drinks in the weekend. I also got a tasty ice cream at the small shop in the park sometimes. Actually, I studied abroad in America as an exchange student when I was in undergraduate. Considering the experiences, I can say Montreal is really different from America and it is much more like European countries. In summary, I recommend you study abroad in Montreal and guarantee you will have a great experience there.

Finally, I would like to show gratitude for those who supported me and this program. In lab, Professor Fabio organized our project and gave us a lot of tips for the experiment. Ph.D. student Jinsil supported me in the way that she taught me how to use the equipment and discussed my project. Also, all of the lab members supported me so that I could enjoy my lab work in Montreal. Also, I really appreciated for advisors in both country (Canada and Japan). Advisor Annick in Montreal provided me with information necessary and Advisor Kim-Lee in Montreal helped me with the life in Montreal officially and privately. Advisor Kato-san and Leleito-sensei in Nagoya helped me with essential procedure for this project and Grib-sensei checked my essay, which is one of the most important submissions. I would not be able have such a great experience without their kind supports company in the future.



海外渡航助成制度による研究活動報告

(2022年度は実渡航、オンライン会議参加費双方に対して助成を行った)

■ 所属 応用物理学専攻 博士後期課程(D2)

氏名 小島 慶太(指導教員:片山尚幸准教授)

(1) 参加学会名及び参加期間

学会開催地:オランダ・アムステルダム

国際会議名:International Conference on Strongly Correlated Electron Systems 2022

参加期間:2022年7月23日~2022年7月30日

(2) 参加中の活動概要、感想、希望など

今回、SCES2022に参加しポスター発表を実施した。発表の際は多少の緊張もあったが、発表内容に関して論文化を進めていることや国内での発表経験があったことからスムーズな対応ができたと考えている。SCES2019でのポスター発表の経験から、議論に利用できそうな論文をいくつか印刷して持って行ったがこれが役立った。私の研究内容、手法に関しては日本国外でより活発に行われており、実際に競合研究者と議論することができたのは本研究会に参加することによって得られた重要な成果である。そこでは当初の期待とは異なる結果が得られた原因について議論をすることができた。

自身の発表以外でも、口頭・ポスター発表などから興味深い物質に関する話を複数聞くことができた。いくつかは直接関係しそうな物質群も存在し、それに関して出版された論文で疑問に思った点などに関して投稿者と直接議論することができた。また発表とは直接関係がないが、SCES期間中に行われたwelcome receptionやdinnerなどで国内外を問わず様々な研究者と交友を持つことができ、特に今後の進路や将来などに関して様々な年代、国の人と相談したり話を聞いたりすることができた。

■ 所属 電子工学専攻 博士後期課程(D1)

氏名 田中 大貴(指導教員:須田淳教授)

(1) 参加学会名及び参加期間

学会開催地:ドイツ・ベルリン

国際会議名:International Workshop on Nitride Semiconductors

参加期間:2022年10月7日 ~ 2022年10月16日

(2) 参加中の活動概要、感想、希望など

上記の学会に参加し、研究成果「Electrical characterization of AlGaIn/GaN HEMTs fabricated on semi-insulating GaN substrates doped with Fe, C, or Mn」の口頭発表を行った。また、GaN-HEMTを含む、電子デバイス関連分野の講演の聴講や研究者との議論を行い、窒化物半導体電子デバイスに関する最新動向の調査を行った。さらに、自身の研究や発表内容に関して助言を得ることができ、今後の研究に活用できる実験・解析手法についても学びを得ることができた。今回の渡航で得た知識、体験を無駄にせず、今後の研究活動の糧として利用していきたい。

■ 所属 エネルギー理工学専攻 博士後期課程(D1)

氏名 李 旭(指導教員:柚原淳司准教授)

(1) 参加学会名及び参加期間

学会開催地:オンライン

国際会議名:14th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices '22

参加期間:2022年10月17日～2022年10月21日

(2) 参加中の活動概要、感想、希望など

今回は14th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices '22(ALC22)学会に参加し、表面分野の発表内容を聞いた。そして、18日のポスターセッションで「Growth of ultra-thin quasicrystal-like Ce-Ti-O structure on Pt(111)」という題目で、発表者としてポスター発表を行った。

学会の口頭発表では、ドイツ、アメリカなどの他の国々から、表面分野で非常に強力な研究者が多数招待されて、今まで使ったことのない実験方法や分析手法をたくさん学んだ。今までは、準結晶領域の学会へ参加したばかりだが、今回は表面領域の学会へ参加し、意外な成果をもらった。自分の発表で、Wolf Widdra先生やMichael Altman先生から、とても貴重なアドバイスをもらって本当にありがたいと思う。

来年度も色んな学会へ参加し、様々な分野の人とコミュニケーションを取りたいと思っている。

■ 所属 電子工学専攻 博士後期課程(D1)

氏名 姚 睿軒(指導教員:内山剛准教授)

(1) 参加学会名及び参加期間

学会開催地:米国・ミネアポリス

国際会議名:The 67th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials (MMM 2022)

参加期間:2022年10月31日～2022年11月5日

(2) 参加中の活動概要、感想、希望など

当初の予定では、自分の研究を発表しに行き、専門家や同僚とディスカッションすることを想定していた。主に自分の研究しているテーマ、磁気センサ、磁気物理などについて、世界中の専門家と意見交換すると思ったが、実際、会議に参加する中で、これまであまり知らなかった内容や研究にも触れることができた。これらの意見交換は、私自身の研究に新たなアイデアを与えてくれただけでなく、さらに多くの知識を勉強になった。同時に、自分はまだまだ勉強不足で、博士後期課程学生として学ぶべきことがたくさんあることも認識している。

一方、講演会やポスター発表に参加する際には、磁性分野の専門家や先輩に会うことができた。世界各国から集まった人たちと交流し、人脈を広げることができた。また、その後の会議で、沢山知識を学んで、良い研究者に成長することを期待している。

■ 所属 物質プロセス工学専攻 博士後期課程(D3)

氏名 高倉 有矢(指導教員:川尻喜章教授)

(1)参加学会名及び参加期間

学会開催地:米国・フェニックス

国際会議名:2022 AIChE Annual Meeting

参加期間:2022年11月12日～2022年11月19日

(2)参加中の活動概要、感想、希望など

世界最大級の化学工学に関する学会“2022 AIChE Annual Meeting”にてポスター発表を行いました。本発表では関連分野の大学の先生方や企業研究者の方々と広く意見交換を行うことで自身の研究への知見が深まり、かつ将来のキャリア形成に繋がりうるネットワークを得ることができました。

また、学会開催期間は11/13(日)～11/18(金)の6日間あったため、上記の発表以外にも多くの方々の発表を公聴しました。これにより関連分野の最先端の知識を得ることができました。加えて、本学会では参加者同士の交流を目的とするセッションが非常に多く開かれており、これらに積極的に参加することで他国の博士後期課程の学生やポストドクターと接する機会が得られました。その結果、研究内容だけでなく進路・将来設計などについても意見交換をすることができ、視野が広がりました。

新型コロナウイルスの影響により、この規模の国際学会に対面で参加した経験は私にとって初めてです。今回ご支援をいただいたことで非常に有意義な経験を得ることができました。深くお礼申し上げます。

■ 所属 航空宇宙工学専攻 博士後期課程(D2)

氏名 佐藤 朋之(指導教員:松岡健准教授)

(1)参加学会名及び参加期間

学会開催地:米国・ナショナル・ハーバー

国際会議名:Science and Technology Forum and Exposition

参加期間:2023年1月21日～2023年1月31日

(2)参加中の活動概要、感想、希望など

米国メリーランド州で開催された国際学会 Science and Technology Forum and Exposition へ参加し「Experimental Study on Initiating Detonation Waves by Shock Focusing in Laser Ignition」という題目で口頭発表を行った。発表内容はレーザー一点火と衝撃波、デトネーションと複数の分野にわたるものであったが、本学会が航空宇宙分野で世界最大規模のものであったため、化学反応や衝撃波、可視化計測を始め様々な分野の専門家から質問を頂き議論することができた。また、渡航者が専門としているデトネーションのセッション以外にも、レーザーやロケットエンジンに関するセッションにも参加し、質疑応答を通じて世界各国の先生や研究者、博士課程の学生と知り合うことができた。以前参加した学会で知り合った研究者や学生の方と再会することもできたため、今後も機会があれば本学会も含め他の国際学会にも積極的に参加したい。

令和4年度交換留学による派遣留学生

学科・専攻名	学年	派遣大学	派遣期間
化学システム工学専攻	前期課程1年	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校(米国)	2022.8.12- 2023.5.15
物質プロセス工学専攻	前期課程1年	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校(米国)	2022.8.12- 2023.5.19
応用物理学専攻	前期課程2年	コペンハーゲン大学(デンマーク)	2022.8.23- 2023.6.30
機械・航空宇宙学科	3年	アーヘン工科大学(ドイツ)	2022.9.14- 2023.3.17
環境土木・建築学科	4年	ミュンヘン工科大学(ドイツ)	2022.9.26- 2023.8.25
マテリアル工学科	3年	ニューサウスウェールズ大学(豪州)	2023.2.4- 2023.3.4

令和4年度短期留学推進制度（受入）による外国人留学生

身分	学科・専攻名	受入期間	出身校
特別聴講学生	物理工学科	2022/4-2022/8	The Hong Kong Polytechnic University
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/4-2022/8	Cairo University
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/4-2022/8	Cairo University
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/4-2022/8	University of Twente
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/4-2022/8	University of Twente
特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/4-2023/2	Del Valle de Guatemala University
特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/4-2023/2	Dalian University of Technology
特別聴講学生	環境土木・建築学科	2022/4-2022/8	Colorado School of Mines
特別聴講学生	環境土木・建築学科	2022/6-2022/8	North Carolina State University
特別聴講学生	化学生命工学科	2022/9-2022/2	University of New South Wales
特別聴講学生	マテリアル工学科	2022/9-2023/2	Korea Advanced Institute of Science and Technology (KAIST)
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/9-2023/2	University of Sydney
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/9-2023/8	University of British Columbia
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/9-2023/8	University of Florida
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/9-2023/8	Seoul National University
特別聴講学生	電気電子情報工学科	2022/9-2023/8	North Carolina State University
特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/9-2023/2	RWTH Aachen University

特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/9-2023/2	University of Indonesia
特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/9-2023/2	University of Oslo
特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/9-2023/8	Dalian University of Technology
特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/9-2023/8	RWTH Aachen University
特別聴講学生	機械・航空宇宙工学科	2022/9-2023/8	Dalian University of Technology
特別聴講学生	環境土木・建築学科	2022/9-2023/2	Technische Universität München
大学院特別聴講学生	電子工学専攻	2022/4-2022/8	Technische Universität Braunschweig
大学院特別聴講学生	航空宇宙工学専攻	2022/4-2022/8	RWTH Aachen University
大学院特別聴講学生	国際交流室	2022/4-2022/8	Technische Universität Darmstadt
大学院特別聴講学生	化学システム工学専攻	2022/6-2022/8	North Carolina State University
大学院特別聴講学生	電子工学専攻	2022/6-2022/8	North Carolina State University
大学院特別聴講学生	物質プロセス工学専攻	2022/9-2023/8	National Tsing Hua University
大学院特別聴講学生	電気工学専攻	2022/9-2023/2	Technische Universität Braunschweig
大学院特別聴講学生	機械システム工学専攻	2022/9-2023/2	Chemnitz University of Technology
大学院特別聴講学生	航空宇宙工学専攻	2022/9-2023/2	Technische Universität Braunschweig
大学院特別聴講学生	土木工学専攻	2022/9-2023/2	Communauté Université Grenoble Alpes
大学院特別聴講学生	土木工学専攻	2022/9-2023/2	Università degli Studi di Padova
特別短期研修学生	マテリアル工学科	2022/8-2023/1	Thammasat University
特別短期研修学生	環境土木・建築学科	2022/4-2022/7	São Paulo State University (UNESP)

特別研究学生	応用物質 化学専攻	2022/4-2022/6	Westfälische Wilhelms- Universität-Münster
特別研究学生	情報・通信工学専攻	2022/4-2022/8	Technische Universität München
特別研究学生	機械システム工学専攻	2022/4-2022/8	Bandung Institute of Technology
特別研究学生	土木工学専攻	2022/5-2022/10	Beijing Jiaotong University
特別研究学生	土木工学専攻	2022/5-2023/11	Southeast University
特別研究学生	有機・高分子化学専攻	2022/6-2022/11	Westfälische Wilhelms- Universität-Münster
特別研究学生	有機・高分子化学専攻	2022/6-2022/11	Westfälische Wilhelms- Universität-Münster
特別研究学生	応用物理学専攻	2022/6-2023/5	Harbin Institute of Technology
特別研究学生	土木工学専攻	2022/6-2023/6	Beijing University of Technology
特別研究学生	物質プロセス工学専攻	2022/7-2022/9	Tashkent State Technical University
特別研究学生	航空宇宙工学専攻	2022/7-2022/9	Tashkent State Technical University
特別研究学生	化学システム工学専攻	2022/7-2023/5	MAHIDOL UNIVERSITY
特別研究学生	化学システム工学専攻	2022/8-2022/8	Kasetsart University
特別研究学生	電気工学専攻	2022/9-2022/11	EINDHOVEN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
特別研究学生	電気工学専攻	2022/9-2023/9	Dalian University of Technology
特別研究学生	化学システム工学専攻	2022/10-2023/9	CHINA University of MINING and Technology
特別研究学生	電子工学専攻	2022/12-2023/2	National Tsing Hua University
特別研究学生	土木工学専攻	2022/12-2023/12	Wuhan University of Technology
特別研究学生	有機・高分子化学専攻	2023/2-2023/8	Westfälische Wilhelms- Universität-Münster

授業料を不徴収とする大学（部局）間交流協定締結大学一覧

国・地域	大学名	本学学部名： 全学・部局の別
アイスランド	アイスランド大学	全学間
アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	全学間
アメリカ	オレゴン大学	全学間
アメリカ	コロラド鉱山大学	部局間
アメリカ	シンシナティ大学	全学間
アメリカ	セント・オラフ大学	全学間
アメリカ	ニューヨーク大学	全学間
アメリカ	ノースカロライナ州立大学	全学間
アメリカ	ノースカロライナ大学チャペルヒル校	全学間
アメリカ	フロリダ大学	全学間
アメリカ	ミシガン大学工学部	部局間
アメリカ	ミネソタ大学	全学間
アメリカ	ワシントン大学工学部	部局間
アメリカ	南イリノイ大学カーボンデール校	全学間
イギリス	ウォリック大学	全学間
イギリス	ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジ	全学間
イギリス	シェフィールド大学	全学間
イギリス	ダラム大学	全学間
イギリス	ブリストル大学	全学間
イギリス	リーズ大学	全学間
イギリス	ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS)	全学間
イタリア	カターニア大学	全学間
イタリア	パドヴァ大学情報工学部門	部局間
イタリア	パドヴァ大学土木環境建築工学科	部局間
イタリア	ボローニャ大学	全学間
インド	インド科学大学院大学	全学間
インド	タタ基礎科学研究所	全学間
インドネシア	インドネシア大学	全学間
ウズベキスタン	タシケント工科大学	全学間
ウズベキスタン	サマルカンド国立大学	全学間

エジプト	タンタ大学工学部	部局間
オーストラリア	アデレード大学	全学間
オーストラリア	オーストラリア国立大学	全学間
オーストラリア	シドニー大学	全学間
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	全学間
オーストラリア	モナシュ大学	全学間
オーストラリア	西オーストラリア大学	全学間
オーストラリア	南オーストラリア大学	全学間
オーストリア	クラゲンフルト大学ソーシャルエコロジー研究所	部局間
オランダ	トゥエンテ大学	全学間
オランダ	ラドバウド大学	全学間
カナダ	オタワ大学	全学間
カナダ	カルガリー大学	全学間
カナダ	トロント大学(The Faculty of Arts and Science)	全学間
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	全学間
カナダ	モントリオール大学	全学間
カナダ	モントリオール理工科大学	部局間
カナダ	ヨーク大学	全学間
韓国	ソウル国立大学校	全学間
韓国	浦項工科大学校	全学間
韓国	延世大学校	全学間
韓国	釜山大学校工学部	部局間
韓国	漢陽大学校	全学間
韓国	韓国科学技術院 (KAIST)	全学間
韓国	慶尚大学校	全学間
韓国	慶北大学校工学部	部局間
韓国	慶熙大学校	全学間
韓国	高麗大学校	全学間
韓国	成均館大学校	全学間
グアテマラ	バレ・グアテマラ大学工学部	部局間
ケニア	ナイロビ大学	全学間
シンガポール	シンガポールマネジメント大学	全学間
シンガポール	シンガポール国立大学	全学間
シンガポール	南洋理工大學	全学間
スイス	ジュネーブ大学	全学間

スウェーデン	ウプサラ大学	全学間
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	全学間
スペイン	バルセロナ大学	全学間
タイ	カセサート大学	全学間
タイ	チュラロンコン大学	全学間
タイ	チュラロンコン大学理学部 (JD)	部局間
台湾	国立陽明交通大学電気電子コンピュータ工学院	部局間
台湾	国立清華大学	全学間
チェコ	チェコ工科大学	全学間
中国	華中科技大学	全学間
中国	上海交通大学	全学間
中国	清華大学	全学間
中国	西安交通大学	全学間
中国	大連理工大学	全学間
中国	大連理工大学建設工学部	部局間
中国	中国科学院上海セラミックス研究所	部局間
中国	中国科学技術大学	全学間
中国	中南大学	部局間
中国	天津大学建築学院	部局間
中国	東北大学	全学間
中国	同済大学	全学間
中国	南京航空航天大学	部局間
中国	南京大学	全学間
中国	北京工業大学	部局間
中国	北京師範大学減災応急管理学院・地表過程資源生態重点研究所	部局間
中国	北京大学	全学間
中国	哈爾濱工業大学	全学間
中国	浙江大学	全学間
中国	瀋陽工業大学	部局間
デンマーク	オーフス大学	全学間
ドイツ	アーヘン工科大学	全学間
ドイツ	イノベーションフォーハイパフォーマンスマイクロエレクトロニクス (IHP)	部局間
ドイツ	ケムニッツ工科大学	全学間
ドイツ	ダルムシュタット工科大学土木工学・測地学科	部局間
ドイツ	フライブルク大学	全学間

ドイツ	ブラウンシュバイク工科大学	全学間
ドイツ	マインツ大学物理・数学・コンピュータ学部	部局間
ドイツ	ミュンスター大学化学薬学部、有機化学研究所、生物化学研究所、 医薬化学研究所	部局間
ドイツ	ユーリッヒ総合研究機構	部局間
ドイツ	ルール大学ボーフム校物理天文学部及び電子情報学部	部局間
トルコ	ビルケント大学	全学間
ノルウェー	オスロ大学	全学間
ノルウェー	オスロ大学 (INPART PROJECT)	部局間
フィリピン	デラサール大学工学部	部局間
フィンランド	ヘルシンキ大学	全学間
ブラジル	サンパウロ大学	全学間
フランス	クレルモンオーベルニュ大学	部局間
フランス	コミユニテ・グルノーブル・アルプス大学	全学間
フランス	ストラスブール大学	全学間
フランス	パリ・シテ大学 (パリ第7大学、パリ・ディドロ大学)	全学間
フランス	パリ東大学	全学間
フランス	ボンゼショセ工科大学	全学間
フランス	リヨン高等師範学校	全学間
フランス	リヨン第3大学	全学間
ベトナム	ハノイ工科大学	全学間
ベルギー	ルーヴェン・カトリック大学	全学間
ポーランド	ワルシャワ工科大学	部局間
ポーランド	ワルシャワ大学	全学間
香港	香港城市大学	全学間
香港	香港大学	全学間
香港	香港中文大学	全学間
香港	香港理工大学	全学間
南アフリカ	ステレンボッシュ大学	全学間
メキシコ	メキシコ国立自治大学	全学間
ロシア	モスクワ工業物理大学	部局間
その他	上海交通大学・韓国海洋大学校・チュラロンコン大学(キャンパスア ジアプラス)	全学間

令和4年度学位取得外国人留学生論文一覧（博士後期課程）

国・地域	専攻名	主論文題目
マレーシア	電子工学	Study on complementary carbon nanotube thin-film transistors for low-voltage flexible electronics (低電圧フレキシブルエレクトロニクスのための相補型カーボンナノチューブ薄膜トランジスタに関する研究)
中国	機械システム工学	Analysis of Driver and Cyclist Responses in Car-to-Cyclist Conflicts (四輪車対自転車衝突におけるドライバと自転車乗員の応答の分析)
中国	応用物質化学	Study on Crystal Design and Growth of Metal-organic Frameworks toward Gas Separation and Membrane Fabrication (ガス分離と膜作製に向けた金属有機構造体の結晶設計と成長に関する研究)
中国	機械理工学	Dependency of deformation of cell nucleus on stretch direction of tissue: Relation to anisotropic response of aortic media to hypertension (細胞核変形の組織引張方向依存性:高血圧に対する大動脈中膜の異方性反応との関係)
中国	生命分子工学	Development of Multifunctional Nanomaterials for <i>In vivo</i> Imaging and Novel Therapy of Tumors (多機能ナノマテリアルによる腫瘍 <i>in vivo</i> イメージングと新規治療法の開発)
中国	物質プロセス工学	Study on Electrospinning Process under Controlled Pressure and Ultrasonication (圧力制御下および超音波付与下でのエレクトロスピンニングに関する研究)
中国	物質プロセス工学	Study on Gas/Liquid Pulsed Discharge Plasma in a Slug Flow Reactor for Nanoparticles Synthesis and Dye Decomposition (気液スラグ流反応器内でのパルス放電プラズマによるナノ粒子合成及び染料分解に関する研究)
中国	物質プロセス工学	Numerical Investigation of Long-term Instability in Solution Growth of SiC Crystal (数値解析による SiC 結晶の溶液成長における長時間不安定性の研究)
中国	化学システム工学	Utilization of lignin to obtain olefin and aromatic compounds through hydrogenation and subsequent fast pyrolysis processes (リグニンの水素化と急速熱分解の逐次的プロセスによる基幹化学原料製造に関する研究)

インド	化学システム工学	<p>Studies on the heterogeneous catalytic process for production of liquid fuels and fine chemicals from hemicellulose derived furfural and furfuryl alcohol</p> <p>(ヘミセルロース由来のフルフラールおよびフルフリルアルコールからの液体燃料およびファインケミカル製造のための不均一系触媒プロセスに関する研究)</p>
中国	化学システム工学	<p>Numerical Study on Chemical Reactions and Transport Phenomenon in The Solid Catalyst Fixed Bed for Methanation of Carbon Dioxide and Dry Reforming of Methane</p> <p>(二酸化炭素メタネーションおよびメタン乾式改質触媒固定床における化学反応と移動現象に関する数値解析的研究)</p>
インドネシア	電気工学	<p>Electric Field Grading by Functionally Graded Materials (FGM) for HVDC Gas Insulated Power Apparatus(直流高電圧ガス絶縁電力装置への傾斜機能材料(FGM)による電界制御に関する研究)</p>
韓国	電子工学	<p>Toward high performance of micro-LEDs via sidewall engineering for next-generation display</p> <p>(次世代ディスプレイにおけるサイドウォールエンジニアリングによるマイクロLEDの高性能化に向けた研究)</p>
中国	電子工学	<p>Nanorod-Based Vertical GaN-on-GaN Schottky Barrier Diodes Fabricated by Top-Down Approach</p> <p>(トップダウン的手法により作製したナノロッド縦型 GaN-on-GaN ショットキーバリアダイオード)</p>
中国	機械システム工学	<p>Design and evaluation of gait phase-dependent control for a robotic walker to facilitate lower limb strength training</p> <p>(効果的な下肢筋力トレーニングを目的としたロボット歩行器のための歩行位相依存制御の設計と評価)</p>
パキスタン	土木工学	<p>Investigating Hydrogen Fuel Cell Vehicle Adoption in Japan: Realization of a Concept of Hydrogen Economy</p> <p>(日本における水素燃料電池車の採用の研究：水素経済の概念の実現)</p>
ウズベキスタン	土木工学	<p>Experimental and Numerical Analysis of Mechanical Behavior of Fiber-Reinforced Sands based on Critical State Soil Mechanics</p> <p>(限界状態理論に基づく繊維補強砂の力学挙動の実験および数値解析的解釈)</p>
タイ	土木工学	<p>MULTI-SCALE TOPOLOGY OPTIMIZATION FOR TRANSIENT HEAT ANALYSIS IN POROUS SOLID MATERIAL CONSIDERING SIZE-DEPENDENT EFFECT</p> <p>(多孔質構造体の寸法効果を考慮した非定常熱移動マルチスケールトポロジー最適化)</p>

中国	土木工学	Nonlinear Hydrodynamic Analysis and Optimization of Bottom-Hinged Oscillating Wave Surge Converters in Shallow Water (浅海域における下部ヒンジ型振子式波力発電装置の最適化に関する非線形流体解析)
中国	土木工学	Comparisons between Traditional Taxi Services and Online Ride-hailing: A case study of Amoi, China (タクシーサービスとライドヘイリングの利用実態の比較：中国，厦門市の事例研究)
中国	有機・高分子化学	Studies on Supramolecular Assemblies Consisting of Antiaromatic Norcorroles (反芳香族性ノルコロールからなる超分子集合体に関する研究)
韓国	応用物質化学	Hierarchically Structured Assembly of 2D Nanosheets for Tailored Dielectric Materials (誘電材料制御に向けた2次元ナノシートの階層的構造集積)
中国	物質科学	Study on formation and optoelectronic property of Ge _{1-x} Sn _x based group-IV semiconductor heterostructures(Ge _{1-x} Sn _x 系IV族半導体ヘテロ構造の形成と光電子物性に関する研究)
中国	材料デザイン工学	カイラル充填β-Mn構造を有する磁気スキルミオンのトポロジカル量子物性の研究 (Studies of topological quantum properties of magnetic skyrmions with the filled β-Mn-type chiral structure)
中国	物質プロセス工学	Study on Improvement of Water Dispersibility of Terpenoids Using Nanoencapsulation Technology with Sub- and Supercritical Fluids (亜・超臨界流体を用いた内包技術によるテルペノイドの水分散性向上に関する研究)
中国	化学システム工学	Research related to the filling process of microcracks in boron carbide ceramics (炭化ホウ素セラミックスにおける微細亀裂の閉塞プロセスに関する研究)
中国	化学システム工学	Research on development and industrial application of high temperature heat storage device using hollow ceramic structure (セラミックス中空部材を用いた高温蓄熱体の開発と応用に関する研究)
中国	化学システム工学	Multivariate Analysis of Synthesis Process and Material Structure for Carbons containing Nitrogen using Solution Plasma (溶液プラズマを利用した窒素含有炭素の合成プロセスと材料構造の多変量解析)

ボリビア	化学システム工学	Synthesis of morphologically controlled and functional carbon materials utilizing solution-plasma-generated soot and their applications (ソリューションプラズマ生成煤を利用した形態制御・機能性炭素材料の合成とその応用)
中国	電子工学	Study on CMOS LSI Systems for Solar-Cell-Powered Continuous Glucose Monitoring Contact Lenses (太陽光発電駆動型持続血糖モニタコンタクトレンズのための CMOS LSI システムに関する研究)
中国	電子工学	A study of the aqueous reactions in plasma activated Ringer's lactate solution (PAL) and the evaluation of genotoxic effect on cancer cells (プラズマ活性化乳酸リンゲル液 (PAL) 中の反応メカニズム解明と PAL の遺伝毒性評価に関する研究)
ベトナム	機械システム工学	A Risk Index of Driving Behavior for Dynamic Objects on Urban Road and its Application to the Vehicle Control (市街地道路における動的物体に対する運転行動のリスク指標と車両制御への応用)
中国	航空宇宙工学	静的および動的格子乱流の減衰特性と粘性散逸率のスケーリング則 (Energy decay characteristics and dissipation scalings of passive/active grid turbulence)
韓国	航空宇宙工学	Self-identification methods of cutting-relevant information(加工関連情報の自己同定手法に関する研究)

令和4年度学部卒業留学生

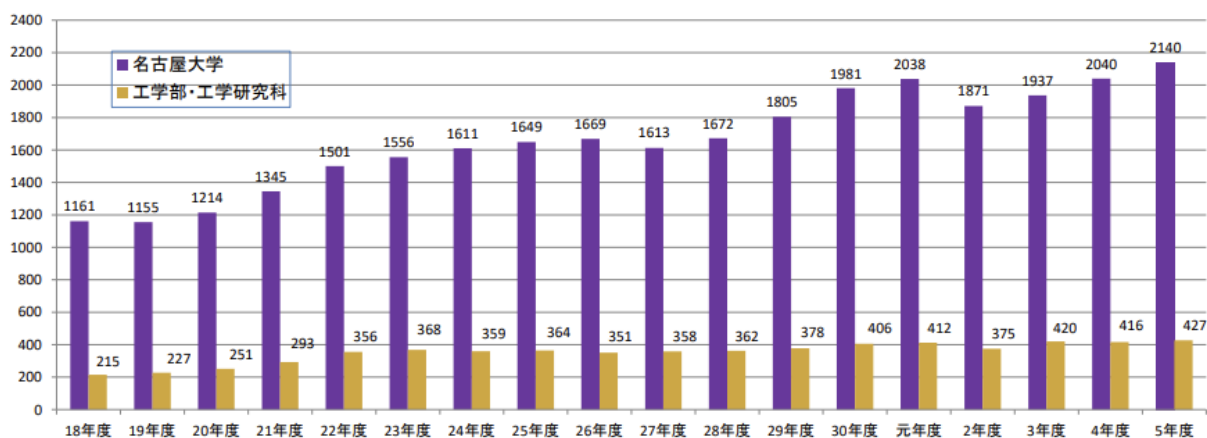
学科名	国・地域	人数
化学生命工学科	ベトナム	2
	韓国	1
電気電子情報工学科	スリランカ	1
	ベトナム	1
	韓国	1
機械・航空宇宙工学科	ウズベキスタン	1
	タイ	1
	ベトナム	1
	韓国	1
環境土木・建築学科	韓国	1
	中国	1

名古屋大学及び工学部・工学研究科在籍外国人留学生の変遷

平成 (西暦)	平成														令和				
	18年度 (2006)	19年度 (2007)	20年度 (2008)	21年度 (2009)	22年度 (2010)	23年度 (2011)	24年度 (2012)	25年度 (2013)	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022)	5年度 (2023)	
名古屋大学	1161 (566)	1155 (563)	1214 (607)	1345 (685)	1501 (764)	1556 (783)	1611 (816)	1649 (799)	1669 (837)	1613 (786)	1672 (822)	1805 (916)	1981 (1014)	2038 (1062)	1871 (972)	1937 (953)	2040 (987)	2140 (1020)	
国・地域数	73	72	74	78	73	76	81	87	93	93	91	106	109	103	100	91	99	97	

工学部・ 工学研究科	215 (34)	227 (99)	251 (63)	293 (73)	356 (101)	368 (102)	359 (96)	364 (88)	351 (86)	358 (87)	362 (81)	378 (86)	406 (91)	412 (102)	375 (102)	420 (102)	416 (96)	427 (102)
国・地域数	26	28	27	26	26	26	28	27	36	40	43	44	38	36	30	31	36	35

()は女子を内数で示す



工学部・工学研究科外国人留学生数調（国・地域別）

令和5年5月1日現在
* ()は女子を内数で示す

国・地域	国費	政府	私費	合計
アフガニスタン	1		1	2
アメリカ	1		7 (1)	8 (1)
イタリア			1	1
イラン			1 (1)	1 (1)
インド	3 (1)		6 (3)	9 (4)
インドネシア	4 (1)		4 (1)	8 (2)
ウズベキスタン			1 (1)	1 (1)
エジプト	1 (1)		1	2 (1)
オーストラリア	1			1
カナダ	2 (1)			2 (1)
グアテマラ			1	1
シンガポール			1 (1)	1 (1)
スーダン			1 (1)	1 (1)
スリランカ	3		1	4
スロバキア			1	1
セネガル			3	3
ソマリア			1	1

タイ	7	(2)			4	(3)	11	(5)
デンマーク					1		1	
ドイツ					8	(1)	8	(1)
トルコ	1						1	
ナイジェリア	1	(1)					1	(1)
パキスタン	4	(2)			1		5	(2)
バングラデシュ	3				1		4	
フィリピン	3	(1)			8	(2)	11	(3)
ブータン	2	(1)			4		6	(1)
ブラジル	1						1	
ベトナム	4				2		6	
マレーシア					1	(1)	1	(1)
モンゴル	1				1	(1)	2	(1)
ヨルダン					1		1	
ラオス					1		1	
台湾					7	(2)	7	(2)
韓国	7	(1)	5	(1)	24	(4)	36	(6)
中国	5	(1)			267	(65)	272	(66)
総計	55	(13)	5	(1)	362	(88)	422	(102)

編集後記

令和 4 年度 国際交流室の活動は、新留学生のオリエンテーションと面談、在籍留学生の支援、在籍生向けの講義、名大生向けの派遣留学説明会、国際交流会等を行ってまいりました。また、オンライン出願システム NU-AAS による私費外国人研究生の受入選抜業務、協定校学部生の短期受入プログラム、留学生を対象とした防災教育、科学技術英語ライティング教育、留学生のキャリア形成支援、留学生リクルーティング活動を適宜オンライン開催に移行しながら継続的に実施しました。詳細については、留学生担当教員の各報告をご参照願います。

令和 4 年度は、新型コロナウイルスの世界的流行の影響でオンラインへ移行せざるをえなかった国際交流イベントが対面復活、国境を越えた国際交流の復活に向かってまいりました。国際交流室一同、対面交流の強化とオンライン通信技術の活用の中でバランスをとりながら国際交流を推進してまいります。教職員の皆様方、関係者各位のご協力とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆になりますが、ご多忙中にもかかわらず本室報の執筆依頼を快くお引き受けくださった教職員の方々に厚く御礼申し上げます。

2023 年 11 月

留学生専門教育担当教員 グリブ ディーナ
留学生専門教育担当教員 曾 剛

名古屋大学工学部・大学院工学研究科国際交流室報

発行年月 2023 年 11 月

発行 名古屋大学・大学院工学研究科 学生支援・国際交流委員会

編集 名古屋大学・大学院工学研究科 国際交流室

